

令和7年12月17日（水曜日）

日田市立津江中学校 笹倉 寛文先生の授業です。

授業の単元は、第3学年「円」。円周角の定理や円周角の定理の逆、1年生で学習した作図を活用して、条件に合う点を見付ける場面です。

導入では、地図上の船の位置を見付けるといった問題を数学の舞台に乗せ、生徒が引き受けることができるよう、生徒とのやり取りを丁寧に行っていました。この後の生徒が個で考える場面では、問題の理解が図られていたこと、また、既習事項の定着が図られていたことから、多くの生徒が自らの考えをもつことができました。

また、生徒一人一人が問題解決を図る場面において、机間指導を通して、生徒の学習状況を見取る「形成的評価」を適切に行い、問題解決に向けて、生徒同士での協働的な活動を促していました。思考が停滞していた生徒からは、「分かった」「すごい」などの声が聞かれ、他者から得た考えを基に、自らの問題解決の過程を振り返って、改善しようとする姿が見られました。

事後研では、生徒の発言を板書に位置付けるなど、思考を整理したり促したり、思考の過程を振り返ったりすることができる構造化された板書の重要性や「努力を要する状況」にある生徒に対する手立ての工夫等について確認しました。

笹倉先生は、日々の授業で「生徒にとって教えられることが当たり前ではない」ということを意識し、生徒の主体性を育むよう、授業において、生徒に任せる場面を多く設定するようになっているとのことです。

ぜひ、今後も生徒が主体的に取り組めるような授業を構想・展開し、一人一人の生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを行ってほしいと思います。

